

緑溢れる広大な都市公園が西日本最大のターミナル駅に直結する
「グラングリーン大阪」先行まちびらき
公園の中にまちをつくる“ランドスケープファースト”な都市開発
日建設計が都市計画・設計監理・ランドスケープ設計を担当

株式会社日建設計（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：大松敦、以下「日建設計」）は、2024年9月6日に先行まちびらきとなる、うめきた2期地区開発事業「グラングリーン大阪（GRAND GREEN OSAKA）」の設計監理及び設計全体統括※他を担当しました。

※設計全体統括：日建設計・三菱地所設計。担当詳細は資料末尾を参照

グラングリーン大阪は、西日本最大のターミナル駅「JR大阪駅」前において、ターミナル駅直結としては世界最大級の規模を誇る約4.5haの都市公園を中心に、オフィス・商業施設・中核機能・ホテル・分譲住宅等を整備するプロジェクトです。まちづくり方針『「みどり」と「イノベーション」の融合拠点』の理念を踏まえ、公民連携のもと、今回の先行まちびらき、2027年の全体まちびらきに向け、土地区画整理事業・防災公園街区整備事業による都市整備が進められています。公園の中にまちをつくる“ランドスケープファースト”思想を掲げてランドスケープと建物が一体となった都市空間のデザインを特長としており、公園や民地の屋外空間を中心としたパブリックスペースを柔軟に活用することで、豊かで活力に満ちたライフモデル“Osaka MIDORI LIFE”の創造を目指しています。地区面積全体で約9.1haの公園を中心としたまちの創出が、前例のないパブリックスペースを実現しました。

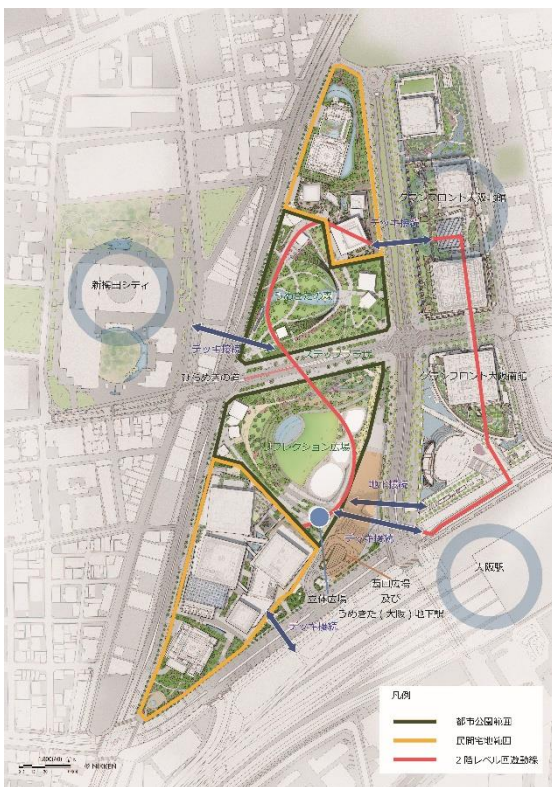


先行まちびらきを迎えるグラングリーン大阪「うめきた公園」 南館テラスよりサウスポーク越しに北館を望む ©Akira Ito.aifoto

開発の核となる公民連携のパブリックスペースづくりと、新たな都市ネットワークの実現

グラングリーン大阪は、「大阪本来の潤ったみどりの大地」というコンセプトのもと、敷地全体をひとつながりの大地として捉え、公園と民地の「みどり」空間が一体的に溶け込むようにデザインされています。その中心に位置する「うめきた公園」では、公民連携の枠組みの中で高質な都市公園を実現しています。約3mのランドフォーム（盛土）により、南公園の大阪駅前に対して開かれた都市的な広場空間「うめきた広場」、北公園や梅田スカイビルの里山の森とつながる多自然型の空間「うめきたの森」、南北街区を横切る道路は歩車道一体となった線状の劇場的空間「ステッププラザ」の多様な3つの居場所（コア）が創出されています。

シンボリックな空中園路「ひらめきの道」は、道路で分断された南北公園を歩行者ネットワークとしてつなぎつつ、ランドフォームの平面形状と逆S字の配置により公園を俯瞰的に望み、梅田スカイビルや都市空間をシークエンスとして体験できる、うめきた地区の新たなランドマークとなります。この「ひらめきの道」と、それにつながるJR大阪駅うめきた地下口やグラングリーン北館・南館、グランフロント大阪や周辺街区とつながるブリッジ・建築も一体で設計、まち全体の回遊性向上にも貢献しています。



全体配置図 歩行者ネットワークが大阪駅からエリア全体をつなぐ



南公園の芝生広場と噴水が楽しめる水盤



ひらめきの道より南公園のランドスケープ・梅田スカイビルを望む



(上) ゲートランタン (下) ひらめきの道ライトアップ

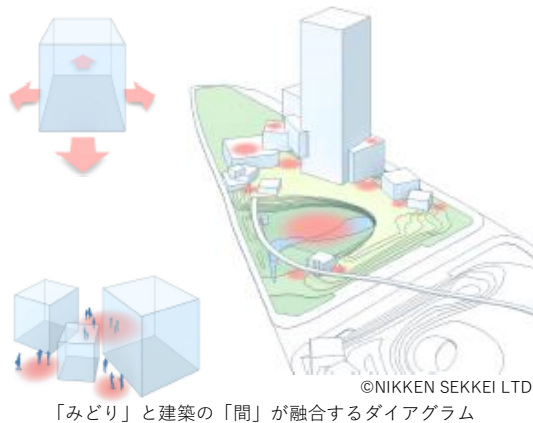
建築と「みどり」の融合により「公園の中にまちがある」ような、多様で寛容な都市空間の実現

「公園と建築が融合したランドスケープファーストのまちづくり」を実現するため、街区周囲の建築群やグランフロント大阪、梅田スカイビルとも調和した正方形のボリュームを小～大スケールまで通して使いつつ、それぞれのボリュームを少しずつ「ずらす」ことでその間に多様な「間」を生み出しました。公園や道路の敷地境界を越えて正方形の群造形が呼応し、「間」に「みどり」が介入することで大小さまざまな緑あふれる余白が生まれ「公園の中にまちがある」今までにないパブリックスペースを実現させました。

さらに、建築ボリューム自体もランドスケープの構成要素と捉えて、大地から生え出たような「みどり」の背景に馴染む外装を各ボリュームに纏わせた、寛容で居心地の良い空間を創出しました。ランドフォームと一体につくられた公園内の建築群はランドフォームに埋め込まれるような形で一体的にデザインされ、どこにも裏のない建築デザインとなっています。

また、日建設計は全体統括の一環として、グラングリーン大阪の緑化の価値を温室効果ガス削減や温熱環境改善、生物多様性促進など5つの評価軸「みどりのものさし」により可視化しました。例えば樹林率が12%まで増加することで大阪の動植物生息地ネットワークへポジティブに作用することなどが確認でき、緑が少ないと言われる大阪全体へ貢献を可視化しています。

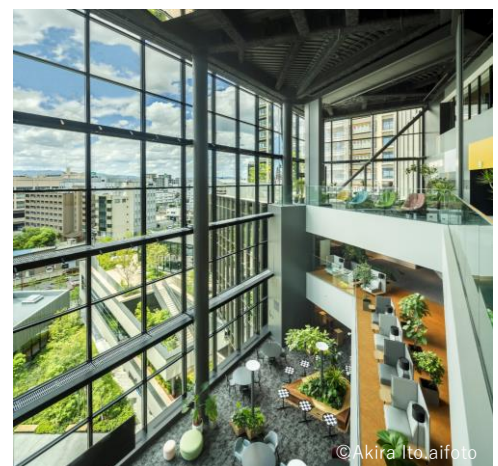
※「みどりのものさし」詳細リリース：https://www.nikken.jp/ja/news/press_release/2024_07_17.html



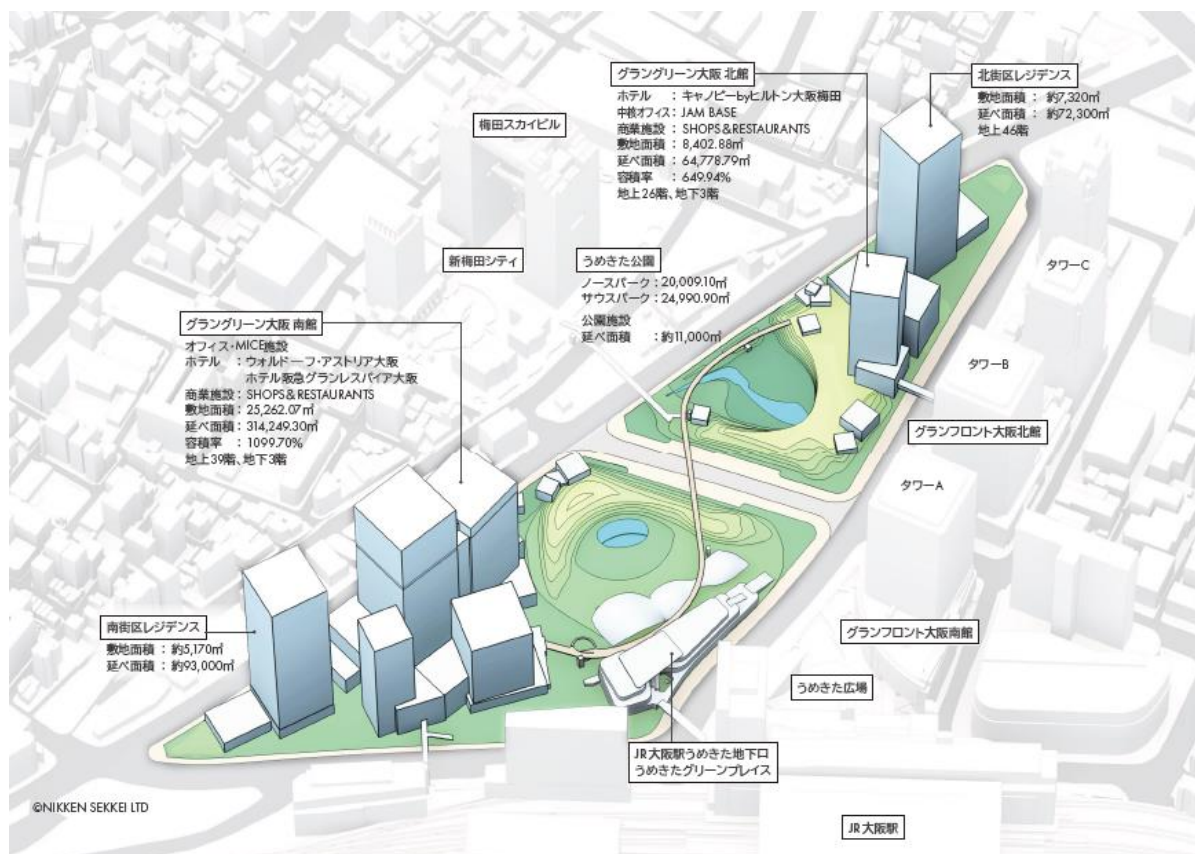
グランフロント大阪から望むグラングリーン全景



ランドスケープと一体となった北公園施設と北館



(上) イノベーションプラットフォーム「JAM BASE」より屋上庭園・公園を見下ろす (下) 西側のまちのスケールに合わせた南公園施設



■ 民地

	北館	南館	グラングリーン大阪 THE NORTH RESIDENCE	南街区分譲棟
設計全体統括	(株)日建設計・(株)三菱地所設計			
設計	(株)日建設計 (株)竹中工務店	(株)三菱地所設計 (株)日建設計 (株)大林組 (株)竹中工務店	(株)竹中工務店 (株)日建ハウジング システム	(株)竹中工務店 (株)日建ハウジング システム
ランドスケープ	○デザインリード ○デザイン	GGN (株)日建設計 (南館：(株)三菱地所設計・(株)日建設計)		
監理	(株)日建設計	(株)三菱地所設計 (株)日建設計	(株)日建ハウジング システム	(株)日建ハウジング システム
施工	うめきた2期共同企業体 (株)竹中工務店・(株)大林組			

■ 都市公園

・一般園地（整備主体：大阪市・独立行政法人都市再生機構 ※アップグレード：事業者JV）

設計	○ベースグレード（公共） 基本設計：(株)日建設計・(株)三菱地所設計 / 実施設計：(株)日建設計 ○アップグレード デザイン提案など：事業者JV / デザインリード：GGN / デザイナー：(株)日建設計 照明デザイナー：(有)内原智史デザイン事務所 サインデザイナー：(有)井原理安デザイン事務所 サインプロジェクトマネジメント：(株)メック・デザイン・インターナショナル
施工	大林組・竹中工務店・竹中土木特定建設工事共同企業体

・公園施設（整備主体：事業者JV）

設計	○公園施設全体（大屋根を除く） 基本設計・実施設計：(株)日建設計 ※VS. 設計監修：安藤忠雄建築研究所 ○大屋根 基本設計・実施設計：(有)SANAA事務所
監理	○公園施設全体（大屋根を除く） (株)日建設計 ○大屋根 (有)SANAA事務所
施工	うめきた2期共同企業体（(株)竹中工務店・(株)大林組）

■ 日建設計について

日建設計は、建築・土木の設計監理、都市デザインおよびこれらに関連する調査・企画・コンサルティング業務を行うプロフェッショナル・サービス・ファームです。1900年の創業以来120年にわたって、社会の要請とクライアントの皆様の様々なご要望にお応えすべく、顕在的・潜在的な社会課題に対して解決を図る「社会環境デザイン」を通じた価値創造に取り組んできました。これまで日本、中国、ASEAN、中東で様々なプロジェクトに携わり、近年はインド、欧州にも展開しています。

URL：<https://www.nikken.jp/ja/>

■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社日建設計 広報室 Tel. 03-5226-3030 e-mail：webmaster@nikken.jp